障害がある方とボランティアのためのハンドブック

外出するときにお願いするためのヒント

あなたらしい ゆるやかな つながりを…

社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会

はじめに

買い物、映画鑑賞、散歩など、さまざまな場所へ外出することは、多くの人や新しいできごとに出会い、自分の「生活の質」をより高めることにつながります。

また、外出を通して家族、友だち、施設職員など日頃接している人とは違う人と出会うことによって、新たなゆるやかなつながりが生まれ、「生活の幅」をより広げることができます。

このことから、「外出」は生活する上で大切な時間の一つと言えます。

しかし、障害がある人から「ボランティアに外出をお願いしたいけれど、何をお願いしたらよいのか不安だ」「外出するときのボランティアを探しているけれど、どこに相談したらよいか分からない」という声が聞かれます。

一方、ボランティアから「何でもボランティアに任され、そもそもボランティアの役割は何か、もう一度確認したい」という声が聞かれます。

そこで、今回は身体に障害がある人（特に運動機能障害がある人）が外出するとき、ボランティアをお願いする場合の心構えや役立つ情報、また、外出の機会を通して障害がある人とボランティアがより良い関係を築くた

めの工夫などをまとめました。

多くの人が悩んだ（悩んでいる）であろう事例をもとに作成しましたが、どれも忘れてはいけない大切な内容ばかりです。このハンドブックが、新しい外出計画を立てたり、今までの外出を振り返ったり、ボランティアの役割を再確認したりする参考になれば幸いです。

今回は身体に障害がある人を対象に作成しましたが、知的障害、精神障害など、さまざまな障害がある人もボランティアを依頼するときの心構えは共通します。

また、２つ穴式バインダーのハンドブックとなっています。外出先の資料などをつづり、あなた専用のハンドブックとしてご活用ください。

最後になりましたが、ハンドブック作成にあたりご協力を賜りました皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。

社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会

目次

はじめに …… 1

1.「ボランティア」ってなあに？ …… 4

2.ボランティアにお願いできることって？ …… 5

3.どこにお願いしたらよいの?…… 9

4.ボランティアも依頼者のチカラを伸ばせる！！ ……12

5.ボランティア活動で悩んだときに ……16

6.リスクを防ごう！～お互いが笑顔でいられるように～ ……17

7.参考資料 ……23

1.「ボランティア」ってなあに?

まずは、「ボランティア」について確認しましょう。

ボランティアとは、

- 自分の意見や考えで行動する活動
- みんなが豊かに暮らせるように支え合う活動
- 「○○ができたら、もっと社会が豊かになる」と考え、新しいものを創り出す活動
- お金の見返りが目的ではなく、やろうと思ったことを最後まで取り組む充実感、達成感を味わう活動

の4つの視点が挙げられます。

このように、ボランティアは施設職員の補助的な役割として活動しているわけではありません。

「自分からやりたい気持ちがフツフツとわき上がり行動する人」とボランティアを表現する場合もあるほど、「自分から」という気持ちが強く求められます。

ボランティアを依頼する人（以下「依頼者」）もボランティアもお互いの目的をともに達成できるように関わっていきたいですね。

2. ボランティアにお願いできることって？

一言で「外出」といっても、さまざまな場面でボランティアにお願いすることが出てきます。

あなただったらどのようなことをお願いしたいか、事例を参考に考えてみましょう。

【事例】

映画好きのAさんは、■■映画館までの外出をボランティアにお願いしました。

車いすのまま乗れるリフトの付いた自動車を利用して出発！！

ボランティアグループの自動車を借り、ボランティアが映画館まで運転してくれました。

自宅・施設

■■映画館

トイレ

トイレでは、車いすから便座までの移動と衣服の脱ぎ着をボランティアにお願いしました。

レストランでお昼ごはんを食べる

Aさん専用のスプーンを使って、食事介助をお願いしました。

ちなみに、この日は「Aさんはオムライス」を、「ボランティアはスパゲッティ」をというようにお互い好きなものを食べました。

自宅・施設

行きと同じ自動車をボランティアが運転してくれました。

左の図のように、ただ目的地へ行って帰ってくるだけではなく、途中でトイレに行ったり、食事をしたりと、さまざまな場面でボランティアにお願いすることが出てきます。

それは、事例のような映画鑑賞だけではなく、洋服や食べ物を買いに行ったり、プールへ泳ぎに行ったり、美術館へ芸術鑑賞をしたりなど、外出の内容によってさまざまなことをお願いすることになるでしょう。

日頃からどのような介助を家族や施設職員などから受けているか、自分の生活を振り返ったり、家族や施設職員に聞いてみるとよいでしょう。

先輩からのアドバイス！

「この前、お昼ごはんを食べに、12時にレストランに行ったら、満席でなかなか入れなかったんだ。だから、私はいつもレストランには早めに行くようにしているよ！」

具体的な行き先がはっきりしていなくても、このような方法もあります！

季節は春。暖かくなり、花の季節を迎えます。ちょっと外を見ると花が咲き始め、何となく外に出てみたくなりませんか!?　そんなときは、家族、友だち、施設職員、病院職員など身近な人に話してみてください。ボランティアが一緒に考えてくれるかもしれません。

また、ボランティア依頼の相談窓口（9ページ）では、ボランティアに関する相談に乗ってくれますので、相談するのもよいでしょう。

「どこに行きたい」「何をしたい」と具体的な目的がはっきりしていなくても、施設職員やボランティアが見ごろの花が咲いている公園や河原など知っているかもしれません。話していくうちに、外出の目的地がはっきりしてきます。だから、行き先が決まっていなくても大丈夫！

まずは、思い切って自分の気持ちを伝えてみましょう。

先輩からのアドバイス！

「自分も周囲の目が気になり、外出するのに半年かかった。一度外に出る勇気を出してみましょう。どこへでも行けるよ。まずは、チャレンジを！」

ハイ！ちゅうも〜く！

外出をボランティアにお願いするときに、ボランティアと必ず話し合って、決めてほしいこと！

それは…

「誰（あなた？ボランティア？）が、何（映画代？食事代？電車代？など）のお金を支払うか」です。

すべてあなたが支払う場合もあるでしょう。あるいは、それぞれで支払う場合もあるでしょう。

依頼者とボランティアが無理のない範囲で、「支払い方法」を外出する前に、必ず確認し合いましょう。

ボランティアからのつぶやき

依頼者からの「ありがとう」「また、行きたいわ」の一言がボランティアのやりがいでもあるんだよ！

また、行きは緊張していたようだったけれど、帰りは表情が明るくなっていたのを見たときは、嬉しかったな。

3. どこにお願いしたらよいの？

それでは、ボランティアをどこにお願いしたらよいのでしょうか。**相談窓口を紹介**します。

● ボランティアセンター

各社会福祉協議会のボランティアセンターでは、ボランティアを必要としている人の相談を受け、その人に合ったボランティアを紹介してくれます。

● 相談支援事業所

相談支援事業所は障害がある人の生活上の相談を受ける場所です。こちらでもボランティアを必要としている人への相談に乗ってくれます。

ここをチェック！

参考情報：「障害福祉情報サービスかながわ」では、相談支援事業所の連絡先が掲載されています。

（http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/）

● あなたが利用している社会福祉施設・病院

今利用している社会福祉施設や病院内で相談できる職員はいますか？その職員にどこに行きたいか、何をしたいかを伝えてみましょう。その施設・病院でかかわりのあるボランティアを紹介してくれるかもしれません。

ハイ！ちゅうも〜く！

● 相談窓口に行くときは、相談日時、相談内容などを事前に連絡すると、スムーズに相談が進みやすくなります。

● ボランティア依頼の相談をしても、あなたが考えていたことが必ずしも実現しない場合もあります。

たとえば、「外出のときのボランティアをお願いしたい」と相談に行ってみたが、ボランティアセンターの職員と話すうちに「同じ趣味を持った友だちをつくりたい」「誰かとお話をしたい」というように、本当は自分が何をしたいのか整理ができる場合もあります。

そのときは、他の行事やサークル活動に参加することを紹介されるかもしれませんね。

また、依頼内容がボランティアでは対応が難しい場合は、移動介護従事者などの専門職に依頼することもあれば、制度内で利用できるサービスがある場合は制度の利用について説明があるかもしれません。

● あなたのまちのボランティアセンターはどこですか？記入例を参考に下の図に書き込んでみましょう。

ボランティアセンター

電話番号：

FAX番号：

（記入例）

か な が わ　ボランティアセンター

電話番号：０４５―３１２―４８１５

FAX番号：０４５―３１２―６３０７

（福）神奈川県社会福祉協議会のホームページでは、あなたのまちの社会福祉協議会の連絡先を掲載しております（http://www.knsyk.jp/）。

また、かながわボランティアセンターでも、連絡先をご案内いたします。問い合わせ先は、裏表紙をご参照ください。

4. ボランティアも依頼者のチカラを伸ばせる!!

ボランティアは、より積極的にかかわることによって依頼者の力をもっと伸ばせる、育てることもできるでしょう。

● No！と言えるボランティア

初めてボランティア活動に取り組む皆さんは、依頼者に応えることだけがボランティア活動と考えるかもしれませんが、それだけではありません。

たとえば、依頼者の中には、家族、友だち、施設職員など身近な人以外とのかかわりが薄く、相手への言葉遣いや心遣いが不得手な人もいるかもしれません。

そのときは、「言葉遣いによっては、相手を傷つける場合があること」また、「相手を思いやることが、大切であること」と話し合う方が、依頼者のためになりますね。

このように、外出というものは、ただ外に出かけるだけではなく、ボランティアをはじめ、さまざまな人やできごとに出会うことを通して、新たに「気づく」、「考える」、「理解する」大きな機会でもあるのです。

ただし、「新しい役割が増えた！」「自分にそんなことができるかな？」と思わないでください。何も特別なことではありません。ともに社会で暮らす者同士なのだからと考えればよいのです。

会話編

【事例】

依頼者と話をしていて私に何を伝えたいのか分からなかったよ……何度も聞き返しても怒られないかな？

こんな行動をしてみたら？

依頼者の身近な人（家族、施設職員など）に、その人が何を自分に伝えたかったのか相談しました。すると、家族から「いろんな言葉に言い換えて質問して、ゆっくり最後まで聴いてください」と助言を受けました。

実践したら、ボランティアは少しずつ依頼者が伝えたいことが分かり、依頼者に伝わりやすい表現方法が分かりかけてきました。

先輩からのアドバイス！

依頼者の趣味や特技、最近話題にしたテーマを思い出して聴いてみると、それが伝えたい話だったということがあったよ！

依頼者にとっては、ボランティアや新たに出会った人に自分の気持ちや考えを伝えるために、どのように伝えたらよいか「探ったり」「考えたり」するきっかけになるでしょう。

たとえば、おおげさなくらい感情を表現したり、事前に伝えたいことをメモやカードに書いたりするなど言葉以外のコミュニケーションの手段があります。

一番大切なことは、相手の話にじっくり耳を傾け、相手の心に寄り添うこと。また、お互い相手を理解しようとする気持ちを持つことが大切です。それが、その依頼者とのコミュニケーションを図ることにつながります。

約束編

【事例】

１時間の約束でスーパーマーケットへ買い物に来たのに、急に商店街でも買い物をしたいって言われた！

行ってあげたいけれど、このあと、どうしてもとお願いされて、アルバイトを入れたんだよな。どうしよう……

こんな行動をしてみたら？

「今日は１時間の約束だったから、これからアルバイトに行かなければならないんだ。商店街での買い物も楽しいよね。でも、時間がないので、今度行きましょう。」と伝え、依頼者に理解してもらった。

ボランティアは「ボランティア活動の時間」以外に「仕事の時間」「子どもの送り迎えの時間」「友だちと遊ぶ時間」「趣味活動の時間」など他の生活の時間があります。

そのことをボランティアがはっきり説明することで、依頼者は、ボランティアの立場、生活を考える必要があることに気がつきます。また、そのことから、ボランティアだけでなく、周囲の人とのかかわり方を考えるきっかけになります。

5. ボランティア活動で悩んだときに

ボランティア活動に取り組み、依頼者のことで「どうしたらよいのかな？分からないなあ…」と悩んでいるあなた！！

そんなときは、一人で悩まず、相談してみましょう。

① ボランティア紹介元（ボランティアセンター、施設職員、相談事業所職員など）に相談してみましょう。

② ボランティアグループに所属している場合は、他のメンバーに悩みを話してみましょう。あなたと同じような経験をしているかもしれません。

ボランティアコーディネーター（依頼者とボランティアをつなげる役割の人）のつぶやき

初めてボランティア活動に取り組んだ人には、活動後「今日の活動はどうでした？」と声をかけているよ。

なかなか言えないことも、こちらがきっかけを作ることで、悩みや困ったことなどを相談しやすくなりますね！

以前、ボランティアが「ボランティア依頼者との相性が合わない…」とぽろっとつぶやいてくれたので、次の依頼者とボランティアをつなげるときに生かせたよ！

6. リスクを防ごう! ～お互いが笑顔でいられるように～

依頼者とボランティアがより安心して外出できるように、事前に話し合うことを確認しましょう。

外出することで起こるであろう事故を「前もって防ぎ」また、事故が起こったとき「どのように対応するか」を事前に確認し、「次回の外出ではどこを気をつけたらよいか」を振り返る必要があります。

このことによって、依頼者もボランティアも安心して外出することができるでしょう。

もしもの備えに･･･

ボランティア活動中に起こるさまざまな事故（ケガをした、ケガをさせてしまった、ボランティア活動先の備品を壊してしまったなど）に対する備えとして「ボランティア活動保険」があります。

【参考】ボランティア活動保険

（http://www.fukushihoken.co.jp/volunteer/menu.html）

●事故を事前に防ぐために

【事例：食事制限を事前に確認しなかった場合】

依頼者には病気のために食事制限がありました。しかし、このことをボランティアが知らず依頼者と一緒に食事をした場合、制限以上のごはんを食べ、依頼者の病状が悪化する恐れがあります。

それを防ぐために

■ **依頼者は、「病気で食事制限がある」「食後に薬を飲むから、忘れないように、声かけをしてほしい」などボランティアに気にかけてほしいことを事前に伝えましょう。**

◎ 家族や施設職員は分かっているからといっても、ボランティアや初めて出会った人には、伝えないと分かりません。依頼者が伝えることで、ボランティアは依頼者のことをより理解することにつながり、より安全な外出ができます。

◎ ボランティアも、依頼者が外出するときに気をつけることはないか、依頼者の了解を得た上で本人だけではなく、家族、施設職員など依頼者の身近な方に聞いてみましょう。

こんなときも伝えよう！

「外出予定日の前日に風邪をひいた」「外出中に気持ち悪くなった」場合も、ボランティアに伝え、相談しましょう。外出が中止になる場合もあれば、外出先を変更することもあるかもしれません。無理に外出をしても、あなたもボランティアも楽しめません。外出を楽しむためには、「中止」する勇気も必要です。

【事例：依頼内容を依頼者とボランティアの間で
しっかり確認しなかった場合】

ボランティアは「スーパーマーケットへの買い物の送迎ボランティア」と考えていました。一方、依頼者は「外出でトイレ介助は当然」とお互い異なって理解していました。もし、トイレ介助が不得手なボランティアだった場合、依頼者はトイレに行けなくなる恐れがあります。

それを防ぐために

■依頼者とボランティアが事前に話し合って、依頼内容を確認しましょう。

◎ 外出ボランティアはただ目的地までの送迎だけが依頼内容とは限りません。また、事例のように「トイレ介助」と一言で言っても、「トイレまでの移動なのか」「洋服の脱ぎ着を手伝ってほしいのか」依頼者によって異なります。事前にボランティアにお願いしたいこと（トイレ介助・食事介助・移動介助など）を依頼者とボランティアが具体的に一緒に一つひとつ確認することが必要です。

◎ ボランティアによっても「できること」、「できないこと」があります。そのため、事前にどういった介助が必要かお互いに確認すれば、ボランティアは心構えができ、依頼内容が「できないこと」であれば、他のボランティアに変更するなどの対応ができるかもしれません。

●起きた事故に対応するために

【事例：緊急連絡先を確認しなかった場合】

依頼者が体調を崩し、外出を中止にしたいと考えました。しかし、ボランティアの連絡先を聞いておらず、どのように連絡を取ったらよいか分からない場合がありました。

どのように対応したか

■ボランティアをつなげてくれた人に聞き出しました。

◎ この事例では依頼者は、ボランティアにつなげてくれたボランティアセンターにそのことを伝え、ボランティアセンターがボランティアに中止のことを連絡してくれました。

◎ 急に外出を中止する場合や待ち合わせ時間に遅れそうな場合など急な事故が起きたことを考えて、緊急時の連絡先を確認するとよいでしょう。

「思い込みは事故のもと」

依頼者と外出内容を確認したとき、「きっとこういう介助方法でいいんだろう」「この介助は自分ではできるかな？」など疑問なこと、できないことが出てくるでしょう。そのときは、はっきり依頼者に伝えましょう。「思い込みは事故のもと」です。事前に伝えることが、依頼者とあなたが安全な外出をすることにつながります。これは、ボランティアだけでなく、ボランティアを調整してくれる役割の人にも言えるかもしれませんね。

●次回はよい外出ができるように、振り返ろう！

【事例：建物の環境をしっかり確認しなかった場合】

初めての目的地で、駐車場の場所は確認したが、駐車場の高さを確認するのを忘れ、現地に着いたら車の高さが高すぎ、目的地から遠い駐車場を利用しなければなりませんでした。

次回にどう生かすのか

■外出後、家族、ボランティア、ボランティアコーディネーターなどにどういう工夫をすれば未然に防げたかについて相談したところ、次回から、駐車場の高さも事前に確認することになりました。

◎ 外出をすることで予期せぬことが起こり、思ったような外出ができないかもしれません。同じ事故を起こさないために、次に外出するときはどこに気をつけたらよいのか、他に対処方法はなかったのかを振り返る時間を作りましょう。

◎ その日の外出では、特に問題がなかったけれど、次の外出のときのために、確認しておく方がよいことはありませんでしたか？さまざまな場面をもう一度思い出して、確認しておいた方がよいこと、ボランティアと依頼者がお互い知っておいた方がよいことなどを振り返り、次の外出に生かしましょう。

事前に「お互い」が何を確認したらよいのでしょう？

（これはほんの一例です。自分の中で項目を増やしていきましょう）

◎ 依頼者の「健康面」を確認しましょう。
◎「依頼内容を一つひとつ」確認しましょう。
◎「緊急連絡先」を確認しましょう。
◎「その日の外出」を振り返りましょう。反省するだけではなく、次からもしてほしい「良かったこと」「嬉しかったこと」も振り返りましょう。

この他にも、障害の種類や程度だけでは、どのような支援が必要なのか分からないことだらけです。たとえば、「リュックサックに入る荷物は持てるけれど、大きな荷物は持てないから手伝ってほしいな」「食事をお盆で運ぶときこぼしそうで不安だから、手伝ってほしいな」など、外出することでボランティアに依頼する内容が一つひとつ具体的に確認できます。すぐに自分が望む外出は難しいかもしれません。焦らず一つひとつ確認していきましょう。

初めて会った人と話すときはドキドキするもの！

誰でも初めて出会う人とは緊張し、すぐに自分のことを上手に伝えられないものです。お互いの考えを伝え合う、確認し合うには、相手を知ることから始めるのも一つの方法です。

たとえば、お互いが好きなもの（趣味、食べ物など）を伝えて共通する話題を探すことで、お互いを理解するきっかけが生まれます。そうすることで、少しずつお互いにゆるやかなつながりを作ることにもつながるでしょう。

7. 参考資料

＜バリアフリー情報＞

● 直接問い合わせる

目的地や途中で通る機関や施設に直接電話して設備などを確認しましょう。

● インターネットで 調べる

《《《駅構内のバリアフリー情報について》》》

◆ 神奈川県高等学校鉄道研究部連盟「車椅子ガイド」

http://khto.web.fc2.com/kurumaisugaido/rosensentaku.htm（パソコン）

◆ 交通エコロジー・モビリティ財団「らくらくおでかけネット」

http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/（パソコン）

http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/mobile（携帯電話）

《《《神奈川県内の車いす利用者を中心とした障害がある方が使いやすい飲食店情報について》》》

◆ ＮＰＯ法人神奈川県障害者自立生活支援センター「バリぐる」

http://barigoo.com/（携帯電話）

《《《神奈川県内の公園・緑地とその周辺の情報について》》》

◆ ＮＰＯ法人神奈川県障害者自立生活支援センター「神奈川県公園のバリアフリーガイド」

http://www.kilc.org/bfmap.html（パソコン）

《《《多機能トイレ（車いす対応、ベビーシート対応など）などの情報を維持・管理しているインターネットプロジェクトが運営しているトイレマップ情報について》》》

◆ Check A Toilet「みんなでつくるユニバーサルデザイントイレマップ」

http://www.checkatoilet.com/（パソコン）

http://www.checkatoilet.com/i/（携帯電話）

Check A Toilet
モバイル

バーコードリーダー対応携帯電話で左の図を撮影すると、トイレマップが表示されます。

今回紹介した情報をインターネットで調べたいけれど、「パソコンは難しくて、使えない…」と思っているあなた！

次のページへお進みください。

＜ＩＴサロン・地域派遣・パソコンひろばについて＞

「友だちとメールをしたい」「インターネットで趣味の音楽や旅行を楽しみたい」など、コミュニケーション手段としてのＩＴ（情報技術）利活用のための支援をしている窓口があるので、紹介します。

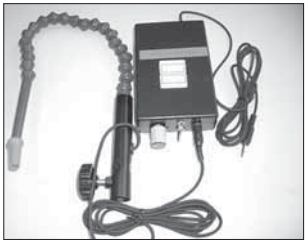
《《《ＩＴサロン》》》

さまざまな支援ソフト・支援機器について、専任スタッフがあなたに合った機器を選んでくれたり、支援環境づくりに向けた情報提供を行っています。また、パソコン操作支援ソフトや支援機器の体験もできます。

○利用日　月曜日～土曜日　午前９時～午後５時

（※土曜日の午後１時～午後５時はピアサポートも行います）

手の平や指先で操作するトラックボール



息や音、わずかな動きに反応するスイッチ

画面拡大ソフトや音声読み上げソフト

メモリー内臓携帯用点字ディスプレイ

《《《ＩＴ利用支援ボランティアの派遣》》》

パソコンの基本操作の説明や、依頼者の希望を踏まえた支援ソフト・支援機器の紹介、購入時のアドバイス、設置・設定の協力、学習支援など、支援計画に基づいて、一人あたり１回から４回程度の訪問支援を行います。

○ 利用できる方　神奈川県内にお住まいの障害のある方

○ 利用回数　１回から４回（※支援内容により異なります）

○ 利用料　無料（※機器購入やレンタル費用は個人負担です）

《《《パソコンひろば》》》

定期的に「パソコンひろば」を開催して、依頼者の希望に応じたＩＴの学習支援を行っています（利用日等は変更する場合があります）。

名　称	問合先	利用日
パソコンひろば平塚	ネットサロンＫＩＬＣ TEL0463-35-2710	主に毎週火曜日の午後
パソコンひろば横須賀	シャローム浦上台 TEL046-841-0319	主に毎週火曜日の午後
パソコンひろば相模原 （城山・相模湖）	(福)相模原市社会福祉協議会 TEL042-756-5034	主に毎週金曜日の午後
パソコンひろば大和	大和市障害者自立支援センター TEL046-265-5198	毎週土曜日の午後
パソコンひろば大井	(福)大井町社会福祉協議会 TEL0465-84-3294	第４水曜日の午後

※平成23年1月末日現在の情報です。

ＩＴサロン・ＩＴ利用支援ボランティア派遣に関する問い合わせ先

ともしび運動推進担当　TEL 045-312-4813・FAX 045-312-6307

参考文献

・奥野英子・関口恵美・佐々木葉子・大場龍男・興梠 理 ・星野晴彦（2006）『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル－知的障害・発達障害・高次脳機能障害等のある人のために』（中央法規出版株式会社）

・赤塚光子・石渡和実・大塚庸次・奥野英子・佐々木葉子（1999）『社会生活力プログラム・マニュアル－障害者の地域生活と社会参加を支援するためにー』（中央法規出版株式会社）

障害がある方とボランティアのためのハンドブック
外出するときにお願いするためのヒント

あなたらしい　ゆるやかな　つながりを…

監　修　鈴木治郎　（NPO法人 神奈川県障害者自立生活支援センター）
　　藤村和靜　（社会福祉法人 常成福祉会）

発　行　平成２３年２月

編　集・問い合わせ先
　　社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会
　　県民活動推進部　福祉ボランティア・シニア活動支援担当
　　（かながわボランティアセンター）
　　〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町２－２４－２
　　かながわ県民センター12階
　　TEL 045-312-4815　FAX 045-312-6307
　　E-Mail　kvc@knsyk.jp
　　URL　http://www.knsyk.jp/

印　刷　株式会社あんざい

このハンドブックは共同募金配分金で作成いたしました。